

2月 モニターレポート		担当出張所	山崎出張所
担当区間	檜尾川合流点～大阪京都府境（阪急大山崎駅付近）（右岸28.2～35.4km）		
モニター実施日時	令和 2年 2月21日（金） 時間帯：14:00～16:00		
天 候	快晴		
（見出し）河川敷のあちこちに春の植物が。			
<p>今月は新型コロナウイルス感染症の蔓延を抑制するため、高槻市の一大イベントである鶴殿のヨシ原焼きが中止となりました。ヨシ原焼きは害虫害草の増殖を防ぐために行われるという側面もあるため、一年間放置ということになるとどのように植生が変化するのか、非常に興味深いです。</p> <p>河川に関して、最近特に思っているのが、釣り人の存在です。たまにルアーを持った人と出くわすのですが、「危ない！注意！」の看板などは見ているのでしょうか。基本的に自己責任でされていることなのかもしれませんが、明らかに危ない位置で釣りをしているのを見かけたことがあり、芥川のような人々の憩いの場となるような安全な川にするか、全面的に釣りは禁止とするか、それとも河川公園の人に止めてもらうか、何かちょっとできることはないのかなあと考えてしまいます。釣りは楽しいものなので、釣り人のモラルの改善について、何かいい方策があればいいのですが…。</p> <p>さて、今回は三川合流地点の近くの河川公園で、植物を通して季節の変化を感じてきました。まず目についたのは、オオイヌノフグリ。春の花としては非常に目立つ存在ですが、河川敷でもその青い花弁を輝かせて、きれいに花を広げていました。さらにカンサイタンポポ。日本には帰化植物であるセイヨウタンポポが入ってきて久しいですが、河川敷などの昔から変わらない植生の残されている場所では、まだまだカンサイタンポポも元気に黄色い頭花をのぞかせています。ハコベは春の七草にも入る植物で、これもたくさん、白く小さな花を咲かせていました。</p> <p>また動物ではテントウムシやホオジロなどが見られ、春の訪れを肌で感じ取ることができました。河川敷にやってくる動物にはどのようなものが多いのでしょうか。淀川の下流の方では、ヌートリアなどが見られたと聞いたことがあります。できるだけ日本古来の植生が維持され、それに付随する動物相も、これからもずっと維持され続けられれば良いですね。そのために私たちには何ができるでしょうか。</p> <p>ランニングをしていた方がおられたので、以前から気になっていた白線を撮影してもらいました。これはランニングに関する白線らしいのですが、いま</p>			
			
			
			

いち同意味を持つものなのか、よくわかっていません。もし可能であれば、教えていただけるとありがたいです。ランナーの方々は、それぞれの目標をもって走ってらっしゃって、大阪マラソンなどのイベントに参加するトレーニングとしてのランニングをする方や、健康維持のためのランニングをする方まで千差万別、様々なニーズに答えるのは非常に難しいと思いますが、こういった標識一つで、ランニングへのモチベーションは保ちやすくなったりするもの。自治体の方々の創意工夫の一つですね！



新型コロナウイルス感染症、早く終息してほしいですね。河川敷はオープンな場所なので、比較的感染シルクは低いのか…??

(意見・感想・処置等)

2月分のモニターレポート、ありがとうございます。恒例のヨシ原焼きが、中止となったのは残念でしたが、また一年後はどうなっているのだろうかという、新たな見方、楽しみも生まれますね。

河川については、本来、誰でも自由に利用できる空間ですが、淀川河川事務所管内では、ドローンや飛行機等の無人航空機の飛行等は、危険・迷惑行為として原則禁止としています。ただ、釣りについては、ジョギングや散歩同様に、自由使用の範疇として禁止とはしていません。こちらでも、危険が予見される箇所には、注意喚起を促す看板は設置してはいますが、釣りという行為自体が禁止事項ではないので、各々で気をつけていただくしかありません。

今年は暖冬の影響か、既に春を感じさせる植物があちこちで見られるようになってきました。時間のあるときは、じっくりとカンサイタンポポとセイヨウタンポポを見分けるのも面白いかもしれません。河川敷で見られる動物といえば、昆虫は言わずもがな、バードウォッチャーの方に人気なのが野鳥です。白鷺や鴨、モニター写真にもあるホオジロはもちろん、渡り鳥のモズやメジロも飛んでくるそうです。おすすめは、例年5月中旬から6月上旬にかけて桂川の方で見られるヒメボタルです。また、特定外来生物としてヌートリアの生息範囲は年々拡大しているように感じます。他にも、外来植物のオオキンケイギク、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリあたりの繁茂を確認しています。淀川管内河川レンジャーや学生さん、ボランティアの方々と連携しながら、外来種駆除を行っています。身近な活動からでもできることはありますので、もしご興味があれば、チェックしてみてください。

◆淀川管内河川レンジャー (HP) : <http://www.river-ranger.jp/>

国土交通省が管理している河川では、約200mピッチで距離標を設けています。例えば、本川の淀川であれば河口から、支川の桂川であれば淀川との合流点から、上流に向かって0.0km、0.2km、0.4km、・・・の距離標を設置しています。洪水時には、ヘリコプターなどを使って上空から様子を伺ったりするので、その際に位置がわかるように対空標示を設けているところがあります(すべての箇所ではありません)。淀川右岸34.0kmであれば、「IR34.0」と表示しています。「.0km」でないところには、単に「I」の白線のみを描いているところがあります。ランニングされている方が利用されているのが、この白線です。写真の箇所は、淀川右岸34.4kmの箇所と思われる。従いまして、設置者は自治体では無く国になります。

新型コロナウイルスの影響で、3月からの学校が休校となり、イベントなども自粛の動きがみられます。たしかに河川敷はオープンスペースなので今のところ大きな問題とはなっていませんが、油断せずに過ごしたいですね。今月もモニター活動、ありがとうございました。